

令和7年度 学校評価（後期）結果報告

八幡浜市立江戸岡小学校

1 令和7年度後期自己評価結果の報告

(1) 学校生活について

多くの児童が学校生活を楽しいと感じている一方、児童・保護者の評価から一部に楽しさを実感できていない児童の存在が見られる。特に高学年では人間関係の悩みが増え、前期よりも「楽しくない」と感じる割合が上昇した。今後はアンケートや教育相談等を通して児童理解を深め、不安や悩みの早期把握と解消に努める。

(2) 学習指導について

多くの児童が意欲的に学習に取り組み、授業が分かりやすいと感じている割合も高い。一方で学習内容の理解が十分でない児童もいるため、丁寧な説明や個別指導を充実させる必要がある。学習の振り返りの時間を十分に確保し、各学年の学習内容を確実に身に付けて進学・進級できるよう支援する。

家庭学習の習慣が身に付いている児童は多いが、十分に定着していない児童も見られる。生活・学習がんばりカード等を活用して実態を丁寧に把握し、個別支援を強化するとともに、家庭と連携して学習習慣の定着を図る。

(3) 生徒指導・人権・同和教育について

挨拶に関する評価は、児童・保護者・教職員のいずれにおいても他の項目と比べ肯定率が低く、改善の必要がある。気持ちのよい挨拶ができる児童もいるが個人差があり、継続的な指導が求められる。家庭や地域の協力を得るとともに、児童会の主体的な取組を促しながら意識向上を図っていく。

言葉遣いに関する肯定率はやや低い。今後も場に応じた言葉遣いの指導を継続し、「たった一言が人の心を温める」を合言葉に思いやりのある言葉がけを促していく。

デジタルメディアの活用に関しては、肯定率が高いものの、きまりや時間を守れない児童も見られる。ノーゲーム・脳育デーの取組を継続し、課題のある児童への支援を充実させる。

多くの児童が友達に優しく接し、良好な交友関係を築いている。今後も教職員間での情報共有やアンケートによる実態把握を丁寧に行い、言葉遣いの指導と関連付けながら、よりよい交友関係づくりを支援していく。

2 今後の重点対策

(1) 目標に向かって主体的に行動する児童を育てる

- 学ぶ楽しさを実感できる、分かる授業作りに努める。
- 自己肯定感を高めるとともに、互いに認め合える集団をつくる。
- 集団への所属意識を高め、互いに支え合える学校・学級経営に努める。

(2) 規則正しい生活習慣を確立する

- 気持ちのよい挨拶や言葉遣いができる児童を育成する。
- デジタルメディアの活用状況を改善する。
- 家庭学習の習慣を定着させる取組を工夫する。